

宇部・山陽小野田消防局消防長賞

「防災作文」

山陽小野田市立埴生中学校 3年 源島 のり佳

災害はいつ起こるか分からない。三十年後、明日、一時間後かもしれない。そんな中、私たちは生きている。私は、大きな地震や津波などは体験したことはない。だが、ニュースなどを見るかぎりすごく恐ろしいものだとわかる。災害が起きた時、家族や大切な人を誰一人失わないようにするためには、防災対策が大切だと思う。

私の家で行っている防災対策は主に二つある。一つ目は、津波などが起きたらどこに避難するかを決めていることだ。私の家は海がすぐ近くにあり、海拔は高いほうだが、海がないところと比べるととても危険なところだ。だから、定期的に地図を見て家族と一緒に確認している。二つ目は、食料を備えておくことだ。水、お米、缶詰、麺類を主に備えている。食料には賞味期限があるので、すでに切れていないか、母とよく確認をするようにしている。以上が家で行っている防災対策だ。

しかし、私の家では防災対策が二つしかできていない。そこで私は、どのような防災対策があるのか調べてみた。調べてみるとたくさん出てきた。その中でも私個人が行えることが三つあった。

一つ目は、家具やガラスの安全性を確保することだ。例えば、突っ張り棒や粘着マットを設置したり、飛散防止フィルムを貼って鋭利な破片ができないようにしたりするなどだ。二つ目は、近所付き合いを大切にしておくことだ。話しやすい関係を作っておけば、災害時に助け合うことができるからだ。三つ目

は、防災グッズをそろえることだ。食料はしっかりと備えているが、改めて考えると懐中電灯や防寒具などがきちんとそろっていないと思った。だから、これからは、食料と防災グッズをしっかりと確認しておくべきだと思う。以上が、私ができる防災対策だ。

このように、防災対策にはいろいろとある。けれども、家では二つしかできていなかった。これからもっと防災対策をしていくように心がけたい。さらに、家族だけではなく、地域の人々全員が防災対策をし、誰一人失われないようにできることを精一杯行っていく必要がある。例えば、回覧板を届けた時には、防災対策をやっているか聞いてみたり、教えてあげたりしていく。また、火事もとても危険なので、冬には火の元は大丈夫か訪ねたときに聞いてみるのもよい。この心がけを忘れないようにしていきたい。

私は看護師になるという夢をもっている。看護師になっても、患者に防災対策を呼びかけていきたい。起こってほしくはないが、災害が起きて怪我をした人がいたら、誰よりも早く気づき、一人でも多くの人の命を救っていきたい。

防災を通して、たくさんの人が救われ、いつどこで起きるか分からない災害から少しでもみんなが命を守れる地域にしていきたい。

